

2020年6月6日

宿利真紀

看護師として寄り添う家族

6月6日が四十九日の法要でした。

4月19日の夜中に、祖母が大動脈解離で亡くなりました。82歳でした。

数年前に、祖父を在宅でみとり、一人暮らしをしていました。

元々、手先が器用で和裁をしていて、いつぞやは私の浴衣を作ってくれたこともあります。木彫りも得意でたくさん作品があります。最近はコーラスや健康麻雀？をしたりと社交的な側面もありました。近所の認知症で徘徊している方の面倒なども見っていたそうです。

祖父は神経系の難病でなくなりましたし、身近に認知症の人もいたせいか、絶対に認知症にはなりたくないと言っていました。食事や運動や努力できることは自ら行い、近所の人や知り合いに啓蒙活動もしていたようです。

亡くなる前日も、夕方に自ら車で買い物に行き、夕食を作っていたようです。手に力がはいらなく冷たくなってきたので、自らかかりつけ医に電話をして脳梗塞疑いで救急車を呼んで脳神経の専門病院医に搬送になりました。その後、頭部CTで軽い脳梗塞と診断され、次の日に精査をとということで様子観察になっていました。しかし、その夜、血圧低下や意識レベル低下もあり再精査にて、大動脈解離を発見し、大学病院に搬送途中で心肺停止で亡くなりました。症状の確認から10時間も経たない間の出来事でした。

私が祖母宅に行けたのはお通夜の少し前。

おうちの中に、お花が随所に活けており、荷物は片付けられていました。

祖父を看取った後、家財の整理もしていたみたいです。

眠るような顔でした。曾祖母の顔に似ていました。

ある意味で、本人の思うような死に方だったと思います。認知症にもならず、自立して生活できていました。独居ではありましたが、娘や孫が定期的に訪れ、近所の方との交流もありました。倒れて、介護が必要な状態にもなることなく・・・。

ですから、私はピンピンコロリというか、（本人の思う）人に迷惑をかけずに死ねてよかったねと心から思っています。

実は、私はこの祖母との血縁関係はありません。

どういう理由で祖父が一度離婚をし、この祖母と再婚したのか。私は本人達に直接聞くことはできませんでした。祖父本人に聞こうとしたことはありましたが。今はもう憶測でしかわからないので何が本当のことなのかわかりません。

でも、叔父と私の母はこのことが原因（叔父と私の母から見れば今回亡くなった祖母は継母）の一つで、ずっと生きづらさを感じていました。祖父がなくなる数年前から祖父と叔父は関係修復を図りましたが、結局それは叶わず。祖父も亡くなり、その後、叔父も急性白血病で若くして亡くなりました。母はなんとか折り合いをつけうまく関わっていたようです。私はそんなゴタゴタに巻き込まれつつ、どこか静観していたのですがやはり、どこかで何かを許せず納得ができていないというのが正直な所でした。

そんな、私の母と四九日法要の後に話していた時に「あんな死に方してバチが当たったのね」と衝撃の一言をもらいました。確かに、感染症の関係もあり、家族の誰とも会うことなく亡くなりました。お葬式も遠方の親戚は参加せず、ひ孫にも会えませんでした。

そして。きっと、私の母にとっても継母という存在との関係性は、今の私には想像し難いものがあったと思います。

一つの事象（今回は祖母の死）をとってみても、人が違えば視点も変わり解釈も変わります。それはわかっていたのですが、こんなにも解釈が違うのかと驚きました。その人との関係性で全くちがう解釈になるのです。

でも、母の一言で、私は今回（祖父の時も）全く涙もでないことに対して心苦しく思っていました。どこかで祖母や祖父を許せず、納得してない事と関係があるのかなと思いつき至ることができました。そして、私自身の生きづらさの原因の一つである、私の母に対するいろいろな想いを消化（昇華）できたように思います。

看護師として看取りの場に対面するとき、治療方針やケア方針を決めるとき、本人や家族みんなが納得できるものを・・・みんなが納得できる最後を・・・と思って関わってきました。しかし、ひととひとの関係性は当人同士しかわからない部分が多く、ほんの少しの時間だけ関わった看護師にはどうにもできないものもあるのだなと今回の祖母の死でやっと実感できたような気がします。でも、この看護師が担当でよかったなと少しでも思ってもらえるように関わって行けたらと思います。